

海外からもイタイイタイ病資料館で学ばれています。

5月19日（火）、インドネシアの南タンゲラン市からイタイイタイ病を小学校の教科書で紹介しようと取り組んでいる大学の教授や教員、市の関係者そして、その取り組みを支援している一般社団法人インドネシア教育振興会の窪木靖信代表理事、富山大学人間発達科学部根岸秀行教授の総勢7名がイタイイタイ病資料館を訪れ、鏡森館長の案内のもと、イタイイタイ病の恐ろしさとその克服の歴史について学ばれました。また、当日は、小学校の教科書作りに役立てていただくため、当館保有の写真や資料約10点を鏡森館長からインドネシア教育振興会の窪木代表理事へ提供いたしました。

また、5月27日（水）には、シンガポールの St. マーガレット セカンダリースクールの教員生徒34名がイタイイタイ病資料館を訪れました。これは、富山市婦中地区の少年少女海外派遣事業で来県されたもので、資料館への訪問は、昨年につき3回目となります。英語の通訳を介して、職員の解説を聞きながら展示室を見学された後、若林カズ子さんの語り部講話を聴講されました。言葉の違いはありましたが、イタイイタイ病患者や家族の苦しみ、そしてその苦難を克服してきた過程は生徒たちにもしっかり伝わっているようでした。質問の時間では、カドミウムの他の動物への影響や胎児への影響の有無などについても質問がありました。

資料館は、イタイイタイ病の教訓を海外へ発信するという重要な目的を持っていることから、海外からの来館者の受け入れやそれを支援する方々への協力を今後とも続けていきます。



南タンゲラン市、インドネシア教育振興会の  
皆さん



St. マーガレット セカンダリー スクールの  
皆さん

国内外への情報発信を強化しています。

イタイイタイ病資料館では、外国の方への対応については、5ヶ国語（日・英・中・韓・露）に対応した展示室の展示パネルや音声ガイド、展示ガイドブックを用意しているほか、ホームページについても5ヶ国語で紹介しています。

昨年度、ロシア語表記のホームページの解説内容をより詳細なものに拡充したほか、新たに、イタイイタイ病を分かりやすく解説したロシア語のガイダンス映像を制作いたしました。これによりガイダンス映像も5ヶ国語対応となりました。

今後ともイタイイタイ病のような公害が二度と繰り返されないことがないよう、他の公害資料館とも連携しながら、国内外への情報発信に努めていきたいと思っております。



ロシア語ホームページ



ロシア語ガイダンス映像

資料館では、国内外に向けてイタイイタイ病の恐ろしさとその克服の歴史、環境と健康の大切さを伝えるために情報発信しています。

